

令和4年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「学力保障」を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
--------	-------	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>・学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。</p> <p><課題>・学校選択率は50%前後である。</p> <p>・全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力達成率は低い。「学力保障」を通して学校の魅力を高め、「選ばれる学校創り」を進めていく必要がある。</p>
-------------------	---

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	取組		自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント		
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主要な事業(取組)に対しての学校の組織的に対応による取組の実施・充実	①標準学力調査の実施 ②小中連携研修の実施 ③一人1台端末の活用リスト作成 ④業者による「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」、「担任補習」(トリプル補習)の実施 ⑤中・高学年ブロックにおける教科担任制の実施 ⑥「eライブラリアドバンス」東京ベーシック・ドリルの活用	①国語・算数の達成率80%、理科の達成率70% ②小中連携研修年3回、中学校教員を招いての校内研修会年4回 ③全学年で活用リストを作成 ④カムバック教室年150回、サンライズ教室・担任補習各年35回以上 ⑤各ブロック内で、1教科以上 ⑥「江戸川っ子studyweek」年3回、「家庭学習週間」年2回、提出率・取組率90%	A	B	○標準学力再調査の達成率 国語73.6%、算数75.7% ○小中連携研修2回実施(感染症対策のため、1減)、中学校教員を招いての校内研修会年4回実施 ○令和6年度各学年の年間学習指導計画に反映 ○カムバック教室150回実施、サンライズ教室35回以上実施 ○中・高学年ブロックの社会科・理科で実施、すべてのブロックでクラス担当交換期間を1か月間実施 ○「江戸川っ子studyweek」13回実施、「家庭学習週間」2回実施、全学年で提出率・取組率90%以上	A	・カムバック教室やサンライズ教室、標準学力調査等の確かな学力の向上への様々な取組は、多くの児童の積み残し解消と基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・基礎学力を身に付けることが大事であるが、そのスピードや学力向上のゴールは一人一人異なる。学力課題と学校の取組、「生きる力」との関係や、教員や保護者、地域に説明することが不足していると感じる。今以上に分かりやすく周知する必要があるのではないかな。 ・計画的かつ確実に実施している。継続してほしい。	・「学習カルテ」を作成することで、児童一人一人の学習課題に合わせたきめ細やかな指導を実施し、学習の積み残し解消と基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・カムバック教室委託業者との連携を密にし、「学習カルテ」を共有する等、学習定着の相乗効果を実現させる。 ・ブロック担任制、クラス担当交換期間の取組を継続するとともに、全ブロックで一部教科担任制を実施する。 ・1人1台端末の活用資料、家庭学習啓発資料を作成・配布し、保護者意識の向上と家庭学習の充実を図る。	
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	①毎朝マラソンの実施、マラソン週間の設定 ②鹿骨タイム(休み時間を活用した運動遊び)の実施 ③ラジオ体操等の外部講師を招いた運動機会の確保 ④夏季休業中水泳指導、校内水泳大会の実施	①毎日実施、学期1回のマラソン週間の設定 ②月1回以上、体力調査項目の80%以上で区平均以上 ③各学年1回以上 ④50mを泳げる高学年児童70%	A	B	○毎朝マラソン毎日実施、マラソン週間年3回、マラソン月間1回、校内マラソン大会実施 ●鹿骨タイム5回実施 ●体力調査項目で区平均以上が26% ○外部講師を招いたラジオ体操教室を実施 ○なわ跳びパフォーマンスによる出前授業を2月に実施 ○夏季水泳教室10回実施、校内水泳大会実施 ●50mを泳げる高学年児童35%	B	・学習の集中力を高めるには、体力の向上は重要である。 ・体力課題を明確にし、体力調査前の体力向上集中期間や授業時の補助運動での取組のほか、家庭カードを活用して家庭での運動習慣の向上も図り、運動能力を高める。 ・デンタルケアにしないためにも、歯の健康にも努力していることは大事です。ぜひ保護者への啓蒙も含め、健康教育も進めてほしい。	・鹿骨タイムを月1回実施する。 ・体力課題を明確にし、体力調査前の体力向上集中期間や授業時の補助運動での取組のほか、家庭カードを活用して家庭での運動習慣の向上も図り、運動能力を高める。 ・教育委員会と連携し、全校児童を対象に、週1回のフック洗口によるむし歯予防を実施する。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①昼読書の設定 ②学校図書館司書と連携した探究的な学習の実施 ③評価の実施	①年間延べ23時間以上 ②各学年1回以上 ③学校関係者評価年2回、自校及び保護者評価年1回	B	B	○年間延べ23時間以上実施 ○すべての学年で、各学年1回以上実施 ○学校関係者評価を2回実施、学校の教育活動に関するアンケート(保護者アンケート)を実施	A	・昼の読書の時間や読み聞かせ等の取組をさらに充実させることで、本への興味や関心が深まると思う。 ・学校図書館の数が学校規模に合っているのかを知りたい。児童の興味・関心に合った本の選定を進めてほしい。 ・読書科の授業の様子、工夫されている点等をもっと分かるようにしていくといいと思う。	・学校図書館の環境整備や蔵書整理、児童の興味・関心に沿った選書を実施する。 ・学校図書館巡回司書との連携をさらに深め、読書科の授業の充実を図るとともに、学校ホームページ等でも積極的に発信していく。	
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	①国際交流活動の実施 ②副籍交流の推進 ③スマイル教室(エンカレッジルーム)、教育相談室の環境整備 ④不登校児童の居場所等、多機能な役割を持つ部屋の活用	①年1回以上 ②直接交流または間接交流を年2回以上 ③環境整備日年3回以上、雇工事等による明るい空間づくり ④ミニルーム、オープンルームの充実	B	B	○5年生で、台湾の小学校5年生とTeams会議による国際交流活動を実施 ○間接交流を毎月実施(直接交流は、感染症対策のため見送り) ○環境整備実施、雇工事を実施 ○不登校児童の放課後登校時や外国籍児童の日本語指導で、ミニルームを活用	B	・不登校対応は大変難しく時間がかかると思うが、児童の目線に立って、焦らず寄り添ってほしい。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士等との連携をより密やかにし、これまで以上にチャームとして不登校対応や特別支援教育を進めていけるようにする。	・オープンルームやミニルーム、スマイルルーム等の環境整備をさらに進める。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士等との連携をより密やかにし、これまで以上にチャームとして不登校対応や特別支援教育を進めていけるようにする。	
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	①江戸川区子どもの権利条約の理解 ②「hyper-QU」の実施 ③スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携 ④情報共有や取組状況を確認する機会を確保 ⑤一人1台端末やお手紙ボックスを活用した教育相談、「学校生活アンケート」の実施	①権利条約や命に関する授業を年3回以上 ②「hyper-QU」年1回 ③月1回以上の連絡会実施、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談 ④生活指導報告会週1回以上 ⑤お手紙ボックスの常設、「学校生活アンケート」年3回	A	A	○権利条約や命に関する授業をすべての学級で3回以上実施、道徳授業地区公開講座実施 ○「hyper-QU」を実施 ○月1回以上の連絡会を実施、3・5年生の全員面談実施 ○生活指導報告会週1回以上実施 ○「学校生活アンケート」3回実施	A	・大人も子供も健全育成については大事なことである。花の寄せ植え運動等を通して、美しいものを美しと感じる心や感性、他を思いやる心を引き継ぎ育ててほしい。 ・「hyper-QU」によるスクリーニングによって出てきたデータを有効に生かして、指導に役立ててほしい。 ・道徳はとも大きく大切である。標準時数を上回る取り組みもよいのではないかな。	・道徳授業地区公開講座で授業公開と意見交流会を実施し、家庭教育力の向上を図り、より確かな協力体制をつくっていく。 ・「hyper-QU」の学年・個人での経年変化を分析し、児童一人一人の自己肯定感や所属意識、向上心等を伸ばしていく。	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	①授業参観日における評価 ②保護者評価の実施 ③学校関係者評価の実施 ④学校選択率向上のための広報活動	①年5日以上の授業参観日設定、年5回以上の参観アンケート実施 ②年1回(12月) ③年2回(9月と1月) ④授業体験・学校説明会等の案内配布、学校ホームページの記事更新週1回以上	B	B	○年5日以上の授業参観、参観アンケートを実施 ○保護者評価1回実施 ○学校関係者評価2回実施 ○授業体験・学校説明会等の案内配布と実施、学校選択率の向上(選択率51%、学区域内外希望者数35名) ●学校ホームページの記事更新週1回以上未達成	A	・学校方向上のために、学校、地域との連携を取りながら頑張っていたらいい。 ・家庭における教育への保護者の意識向上が課題である。 ・学校ホームページやメール等の活用がよい。 ・学校関係者評価や保護者アンケートの意見を今後の教育活動に活かしてほしい。	・学校ホームページ運営管理計画を作成し、ICTを活用した積極的な情報発信、学校と家庭、地域、関係機関との連携を図る。 ・授業参観や参観アンケートの実施の他、学校の情報、児童の成長や課題を積極的に発信して、家庭教育力向上を図る。	
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①職員会議の廃止、月1回の経営会議・4部会、校務支援システムの活用 ②各種研修・報告会のモジュール実施	①校務支援システムの活用率100% ②服務事故防止研修、ICT活用研修の連続1時間以上設定をなくし、5分×年12回以上、延べ1時間以上を実施	B	B	○校務支援システム活用率100% ○服務事故防止研修30分研修3回、5分研修12回を実施 ●ICT活用研修3回実施	B	・様々な対応がある中で、研修を実施するのにも大変かと思う。その中で研修を行ったり、具体的な取組が始まったことは大きな成果だと思う。 ・ICT活用は、子供の個別最適な学習や協働学習に活かすだけでなく、教員の働き方改革にも有効であるという視点をアピールしてほしい。	・ICT支援員との連携を図り、ICT活用研修計画を作成し、計画的に研修を行う。 ・各部会や経営会議の議題計画や進行管理表を作成し、スムーズで効率的な議案決定とブロック協業による学校運営を進めることで、教職員の勤務時間外労働の短縮を図る。	